

潮音寺だより

＜ホームページ＞ <http://www.ne.jp/asahi/choonji/namo/>

第 292 号
平成 20 年 2 月
電話 052-671-4831
ファックス 052-671-4856
E-Mail: choonji@aichi.email.ne.jp

〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬 1-10-11

【出典】
日常勤行式「香燭」

願我身淨
如香炉
願我心如
智慧火
念念焚燒
戒定香
供養十方
三世仏

九曜

平成20年度お題「火」に因んで

その2 「たき火」

瀬川流泉石家元 勝野 功 子玄塾 作



三重県鈴鹿市の石家元、秋の収穫を終え、木枯らしの吹く淋しい景です。「たき火」だけが通りすがりの旅人を暖めてくれます。手前の道、田んぼ、藪、山と、描いていきます。田を作る時は、「たき火」の煙の場所をあけておいて下さい。「たき火」の小物は、爪楊枝を折って、輪ゴムでまとめて作りました。鈴鹿は芭蕉の郷里への通り道なので、芭蕉の人形の小物を置いてみました。



香炉を漶う
白灰は
澄んだ湖の
水面がごとく
無垢で
清浄であれ
我が
愚かなる
妄執を
薫香とともに
燃べ焚き
そして
明々と
無明を照らす
智慧の火を
点さん
南無阿弥陀仏
南無阿弥陀仏

以和為貴（わをもってとうとしとなす）

先日、朝食をしながら、CBCテレビ、みのもんだ「朝ズバッ」を見ていましたら、近年、近親者による殺人事件が増加傾向にあるということを指摘していました。たしかに、毎日のように、親が子を、子が親を、夫が妻を、妻が夫を、また、兄弟間、親戚間で、理由は様々ですが、よくもこんなに立て続きに起るものだとこの印象を、皆様も多分お持ちではないでしょうか。そこでネットで調べてみましたら、昨年の記事（朝日新聞）ではありますが……、

警察庁によると、遺体をバラバラにする死体損壊や死体遺棄の件数は96年から05年まで計80～110件程度で横ばいだ。一方、親子や夫婦、きょうだい間の殺人事件や傷

害事件をみると、同じ10年間で増加傾向にある。

たとえば、夫婦（内縁関係を含む）間の殺人は4割増の218件、傷害は4倍余の1342件だった。きょうだい間の殺人も50件で3割増。傷害は3.3倍の256件に上った。

こうした増加の一因は、家族間のトラブルでも被害を警察に届け出るように社会意識が変化した結果だと警察庁はみている。ただ、傷害の増え方が急なうえ、殺人のうちに以前から家庭内では隠せなかった事件も増えており、「単に意識の変容だけでは説明がつかない。家族間の人間関係の悪化がうかがえる」（同庁幹部）という……。

近親者による殺人や傷害事件は、経済的困窮や病人・老人介護疲れからくる心の中のようなものもあり、

はなはだ悲惨です。なかでも、怨恨によるものは、他人よりも恨みも倍増するのでしょうか、その結末は、醜く哀れであります。

仏教でいうところの「四苦八苦」の中に、憎たらしい人と会わなければならぬ苦しみ、「怨憎会苦」というのがあります。これは、おそらく、誰もが経験すること、隣近所、学校や会社の中に、肌（はだ）の合わない人、しいては、居なければいけません。と思うような人が、一人や二人いるものです。そのストレスや、かなりのものです。まして、身内の中、特に、家庭内にいたとしたら、それはたまったものではありません。

ですから、そうならないために、恨みを残さないようにしなくてはなりません。知恵のある人という

のは、恨みをなくすまでいかなくとも、軽減出来る人のことをいいます。いつまでも愚痴^{ぐち}つて、恨みをため込む人は、「知」にやまいだれを付けると「痴」になるように、知恵が病氣にかかつているのです。愚痴^{ぐち}が出ぬよう、治療せねばなりません。「こは、あの聖徳太子に知恵を授けていただくことにいたしましょう。

『十七条憲法』の冒頭^{ぼうとう}の「以和為貴」という一節は、皆様よくご存じかと思いますが、第一条全文の内容は、次のようになっています。一、うちとけ和らぐことを大事にし、背き逆^{さか}らうことがないよう心がけよ。人はみな徒党^{てとう}を組み、道理をわきまえる者は少ない。だから、ある者は君主や親にしたがわず、隣近所^{りんきんじよ}と仲違^{なかつちがひ}いをおこす。しかし、

上下の者が仲よくし、執われの心をはなれて話し合うことができるならば、道理が自然と通り、何事も成就^{じゆじゆ}しないことはない。

学校教育において、「自我の確立」を目標にかかげますが、実は、これだけでは具合が悪いのであります。時に、「我」は捨てなくてはならないものであることを、教えてもらわないと困るのであります。いつも、強い我が弱い我を押さえつける構図であつては、「和」は生まれません。

日本を意味する「大和^{やまと}」と「和様^{わよう}」の「和」には、仏教の「諸法無我^{しよほふむが}」の教え、太子の「以和為貴」の精神が込められているに違いありません。次は、第十条の全文です。

十、忿怒^{ひんご}の心を絶ち、瞋恚^{しんき}を棄て、人と意見の違つことを怒るな。

人はみな心があり、心はそれぞれ執着がある。ある人が是認すれば自分は否認する、自分が是認すれば他人が否認する。自分は聖人ではないし、他人は愚者ではない。ともに（欠点の多い）凡夫^{ぼんぷ}にすぎないのである。善惡の理屈は誰がよく定めることができよう。お互いに賢く愚かであることは、鑠^{みつ}（金属製の輪）の端^はが無いようなものである。だから他人が瞋^いるといっても、かえつて自分の過^{あやま}ちを恐れなさい。自分ひとり会得^{えとく}していると思つても、衆議に従つて同調して行いなさい。

つまり、「相共に賢愚なること鑠の端なきがごとし」とあるように、我々は共に、欠点だらけの不完全な存在、凡夫であるという意識を持つことが肝要^{かんよう}なのであります。

給仕 きゅうし

今でこそ、食事のサービス行為を指すことばになっているが、本来は仏にさまざまな供え物をすることをいった。つまりは、花を採って供えたり、水をくんで供えることも「給仕」することだったのである。

それから転じて、食事の世話、あるいは世話をする人を給仕と呼ぶようになるのだが、現代では仏に対するような心のもったサービスが期待できないことはいままでもない。もっとも、給仕される側にも、その資格が欠けるといふものだが。

おか

漢字に直すと「罽伽」。一般には、仏前に供える水、あるいはそれを入れる容器を指すが、実はこの語

現代ではもっとも身近に用いられている。

たとえば、アクアリング、アクアフィルター、アクアリウム（水族館）、アクエリ阿斯（水瓶座）……。つまりは、アクア aqua が頭につく英単語は、すべて水に関係しているといつていい。この英語のアクアが、罽伽と一緒にのである。

梵語ではアルギヤ、あるいはアルガ。「功德水」とも訳されているが、要するに仏前に供える水のこと。このアルギヤ、アルガは、西から移動してきたアーリア人が用いていたラテン語アクアに基づいたという説もある。つまりは、この語、地球を一周してしまったというわけだ。

日本の田舎では、船底にたまる水をあかと呼ぶところもあり、あ

かは世界共通の水を指すことばと理解して間違いない。

『仏教のことば』早わかり事典

雑記

Google Earth

居ながらにして地球全体を眺め渡せる Google Earth がバージョンアップされ、当方の位牌堂のドームも鮮明に表示されるようになりました。また、地形全体、一部建造物も立体表示されるようになり、感動ものであります。

バッタ

寒中、当方の庭にバッタがどういふわけかすぐまっています。俳句の季題に「凍蝶」がありますので、不思議ではないのかも。

◆存らえよ声かけ放つ

凍飛蝗 沐魚

